

「2015年インドネシア大学スプリングスクールプログラム参加報告書」

京都大学総合人間学部2年 (浪花晋平)

僕の海外への憧れは以前から強く、色々な国へ行きたいと思っていました。自分の知らない世界を見て、自分の世界観を広げたいからです。しかし単なる旅行で行きたいというわけではなく、行くからには何か学びたいと思っていました。漠然と留学したいとは思っていたものの、準備などの大変さからなかなか行動に移していませんでした。そんな僕にとってこのプログラムは、海外に2週間という短期間、援助を受けていけるということであってつけのものでした。以前行ったオーストラリアは旅行のようなものだったので、実際に海外で生活するのはどのようなものなのかを知ることができればという期待も込めてこのプログラムに参加しました。

プログラムを終えて思ったのは、住む環境は違えど、やはり皆同じ人間なのだな、ということです。インドネシアはとても暑く、街の様子も日本と全く違ってすごくワクワクしました。同時に、こんなに住む環境が違う人々と簡単に分かり合えるのだろうかと不安にも思いました。しかし3日もすると、日本の友達となんら変わらない態度で接する自分がそこにはいました。特に「浪花さんはいじりやすい」とインドネシア大学(UI)の学生さんに言われた時の衝撃はすごかったです。日本では、僕はいわゆるいじりやすいキャラらしいのですが、まさかインドネシアでも同じことを言われるとは思っていませんでしたので、驚いたと同時に、妙な安心感を覚えました(いじられたいとかそういうのではないです。決して。)

またUIでは熱心に、しかも楽しそうに勉強する学生さんたちの姿に驚かされ、これは負けてられないなど、京大での勉強のモチベーションをもらえました。プレゼンの準備では、複数人で発表の準備をすることの難しさを身をもって体験したし、グループ内で時折始まる英語での会話についていくのに必死になりました。考えてみれば、UIの日本語学科の学生さんたちはインドネシア語はもちろん、英語も喋れた上でさらに日本語も話せるのだから、英語すら十分にできない自分よりもよっぽどすごいわけで、UIの学生さんたちとは仲良くしつつも、劣等感と反骨心を終始抱えていました。帰国後もこの気持ちは忘れてはならないと思っています。

留学についてですが、留学を考えているという一人のUIの学生さんの話を聞きました。また、今回プログラムに参加した他の京大生のみなさんは、ほとんどが自分より海外経験豊富な方で、その人たちからも色々な話を聞きました。自分も頑張らねばと思いました。僕は環境問題に興味があるので、留学はドイツを考えています。

プログラムの内容は、平日午前はインドネシア語講座、午後はUIの授業とプレゼン準備、休日はツアーと、概ね満足いくものでした。ただ、ツアーの予定は自分たちで立てていきかけたと思いました。

進路への影響は、特に影響はありません。僕は将来地球温暖化の解決に研究者として携わりたいと思っているので、引き続きその夢の実現のために頑張りたいと思います。

最後に、僕は班長でしたが、他の京大生、UIの学生さん、先生方をはじめ様々な人からサポートしてもらいました。本当に感謝しています。2週間という短い期間でしたが、得たものは大きく、行く前に立てた目標は概ね達成できたと思います。未知の世界に触れ、変わらない人の温かさに触れた、印象深いプログラムでした。